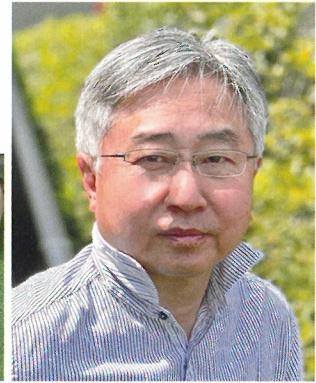




# 思いはつながり、受け継がれる

NPO法人ことステップ

村 一浩 さん



▲足での操作もらくらく

## らくらくマウスの歩み

来年解散を予定しているNPOがある。

NPO法人ことステップは、1995年からパソコン用マウスの代替機器「らくらくマウス」を製造し、障害がある人の元へ届けてきた。その数は累計5000台にのぼる。

NPO設立は、電電公社民営化に伴いPCと電話との接続が可能になり誕生した、草の根パソコン通信ネットの活動がきっかけだ。電子化された情報が、時間・距離・障害を超えて人と人を結びつける。メールやチャットが日常の道具となったように、現代において「情報」は基本的人権ともいえるほど重要だ。

らくらくマウスは、既存のマウスを使えないという声に対し、パソコン通信を通じて集うさまざまな人が、経験と知恵を持ち寄り生み出したものだ。完成品だけでなく基板販売やオーダーメイドにも対応し、実費で修理もおこなっている。

## 「途絶えさせてはいけない」

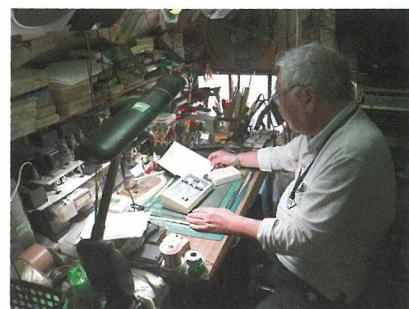
製作を担う主力は埼玉在住の小野さんだ。自宅の屋根裏を改造した工房で、注文に合わせ工夫して製作する姿勢は25年間変わらない。しかし、共に製作を担ってきたメンバーが他界し、自身の高齢化と部品調達のむずかしさから、継続は困難と考え事業継承先を求めた。

多くの支援申し出のなかから都内の福祉機器メーカーが後を継いでくれることになった。ほとんど利益が出ないのでバトンを受けとってくれたのは、社長の「求める人がいるものを途絶えさせてはいけない」という信念だ。

人との距離をとる新しい日常が、社会的なつながりをも薄め個人の孤立を生む時代に、あらためてつながることの意味を考える。

25年前に、力を寄せ合ってこの機器を生み出した人たちの思いは、5000人の人権保障を受け継いだ社長の思いに重なって映る。

小野さんは、今週も、2007年に納品した特注らくらくマウスの、7度目の修理をおこないユーザーに送り返した。



▲工房で作業中の小野さん

むら かずひろ／長年杉並区の障害者福祉策に従事。90年代から障害のある人を対象にパソコン講習会を開催し、NPO法人「ことステップ」には発足時から関わる。現在は、医療的ケア児と家族を支援するNPO法人「みかんぐみ」(<https://mikangumi.com>) 代表理事。